

研修レポート

名古屋第一赤十字病院 研修医

1 か月間この新城市民病院で地域研修させて頂くにあたり、先生方はじめ、スタッフの皆様、患者様には大変お世話になりました。

外来での診療では初診の患者様はまず診させていただきましたが、問診や診察、鑑別など全体的に不十分で勉強不足を痛感しました。先生方の丁寧な診察を実際に見ることで自分の身体診察や問診の取り方一つ一つを見直すことができました。また振り返りでは他の先生からも指摘を受け様々な視点で自分の診療を振り返り、またそれ以外の症例検討を通して多くの知識を得ることができました。丁寧な診察で無駄な検査を省く診療を見せて頂き、普段検査に頼りがちな自分の診療を反省しました。また大量の処方を受けている高齢者は往々にしてよくみられますが、毎日の振り返りの中で必要処方と不要、有害な処方の判断を意識づけられました。

普段自分が日赤病院でみている患者様のその後の生活を在宅や施設を見学させていただく中でみることができたように思います。急性期治療を重視する環境ですが、その一時だけではなく人生として考えたとき、患者様本人だけでなくご家族にとっても何が重要なのかを考えさせられました。そのために必要なのは自己満足な診療ではなく、現実に応じた治療、詳細な生活歴の聴取に始まる様々な社会的サポートなのだと感じました。その中で、末期癌の患者様の往診や訪問看護に同行させていただいたのが一番良い経験になりました。理想的な死の形や介護する家族のあらゆる感情を垣間見れたように思います。

初めは慣れない土地での研修に不安もありましたが、色々と店をおしえて頂き毎日夕食や温泉に走り回って満喫し、地域の方のあたたかな人柄に触れ、最終的には大好きなまちになりました。この地でこの病院で研修できたことをとても嬉しく思います。教育に携わって頂いた皆様に心より感謝申し上げます。